

12月レポート 「ボランティアと冬休み」

12月前半は秋学期末テスト、レポート、スピーチ、また秋学期通して行ってきたボランティアの最終発表会、さらに友人とのパーティーと忙しくも充実した日々を過ごしました。後半は冬休みに入り、オハイオ州内のハウスメイトの実家を訪問、またフィンドレー大学の日本人の友人とはるばる西海岸のカリフォルニアを旅しました。12月レポートでは、上記のボランティアと冬休みについて述べたいと思います。

1. ドッグシェルターでのボランティア

私は、秋学期を通じて Service Ambassadors Program と呼ばれるボランティアプログラムに参加してきました。これはフィンドレー大学の代表としてボランティアに参加し地域に貢献するものです。特徴は必ず自分と異なる国籍の学生とペア、またはグループとなり、ボランティアを通じてお互いの文化理解にも努める点です。私はアメリカ人の三年生とペアを組み、ドッグシェルターでボランティアをすることとなりました。週に一度、犬の保護施設に行き犬と遊んだり、掃除をしました。この施設には何らかの事情で飼えなくなった犬や逃げてしまった犬などが保護されています。そうした犬たちは新しい引き取り手が見つかるまで狭いゲージの中で過ごしています。そのため、私たちの主な仕事は犬たちが運動不足にならないように遊ぶことです。しかし、単に遊ぶと言ってもここには様々な犬がいます。すぐに噛み付いてしまう犬やおそらく過去に虐待を受けていた犬、片目を失った犬、非常に高齢な犬など、それぞれの犬に合った対応が不可欠でした。私は今まであまり犬と触れ合ったことすらなかったので初めは苦労しましたが、獣医学専攻のパートナーにも助けられ最後まで仕事ことができました。また英語を使って犬と遊ぶのもなんだか不思議で面白かったです。さらに、パートナーとの会話の中でアメリカの文化について学んだり、また日本語を教えてあげたりと交流も十分にできています。12月の学期末にはこのボランティアで学んだこと等を他の学生に発表し、他のボランティアをした学生からも経験談を聞けました。非常に有意義な時間だったと思います。



図1: ドッグシェルター (パートナーと)

2. 冬休み

いよいよ冬休みを迎え、まずハウスメイトの実家に2泊3日で遊びに行きました。同じオハイオ州内でもフィンドレーから車で2時間ほどかかるところで非常にのどかなところでした。実家の周辺を案内してもらったり、教会に行ったり、たくさんご馳走してもらったりと楽しい時間を過ごしました。またクリスマス直前に訪問したので、ハウスメイトとその兄弟と共にご両親用のプレゼントを買いに行きました。ご両親も子供たちもお互いにプレゼントを渡すようで日本との違いを感じました。アメリカでは皆本当に家族を大切にしているとよく言われます。今回の訪問ではそれを実感した気がします。

ハウスメイトの実家を訪問した後、日本人の友人と10日間カリフォルニア旅行をしました。主にロサンゼルスに滞在し、途中サンフランシスコ、ヨセミテ国立公園にも行くことができました。12月とはいえカリフォルニアの気温は25℃くらいあり氷点下のフィンドレーとは別世界です。美しいビーチ、有名な「HOLLYWOOD」のサイン、おいしいシーフード、ヨセミテの大自然などカリフォルニアの魅力を堪能できました。ロスが見渡せるグリフィス天文台から初日の出を拝むという貴重な経験もできました。初日の出を見に来ているのはアジア人だけで、アメリカ人はほぼいませんでした。ここにも文化の違いを発見しました。同じアメリカでも土地が広大なだけに様々な姿があります。残りのアメリカ滞在中により多くの「アメリカ」を感じられたらと思います。

図2：ゴールデン・ゲート・ブリッジ



図3：ヨセミテ国立公園



図4：初日の出（グリフィス天文台から）

